

令和6年度 自己評価書・学校関係評価書

令和7年 3月 18日

真庭市立河内こども園

園長 藤井 裕子 印

1 河内こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

しなやかな心と体でいきいきと生活する子どもを育てる

○めざす子どもの姿

「好奇心・探求心のある子ども」(思考力・表現力・判断力・想像力・粘り強さ・挑戦力)

「あかるく元気な子ども」(元気な体・豊かな心・生活の自立・主体性)

「温かい心の子ども」(思いやり・慈しみ・協同・協力・社会性)

2 本年度の重点目標 (課題)

本年度の研究テーマ (重点的に取り組むこと)

「あそぼう！つたえよう！かかわりが生まれ育つ環境づくり」

～コミュニケーション力と基本的生活習慣の確立をめざして～

1 心も体も弾ませて意欲的に環境(人・物・事柄)に関わることができる保育

子どもが「何を楽しんでいるのか」「何を面白いと感じているのか」を探りよりよい育ちにつなぐ環境を構成するとはどのようなことか子どもの内面を理解しながら保育を進めていく。友達とのびのび、いきいきと安心し心を動かし遊ぶことができる園を目指します。

2 異年齢での関わり、小学校、地域を通してコミュニケーション力をつける

少人数で自然な関わりができ、共に遊ぶ中で自分の思いや気持ちなどが表現できるようになるために「気持ちの良い挨拶・返事」さらに「伝わる言葉・わかる言葉・美しい言葉のやりとり」など職員がモデルになって取り組みます。そして、子どもの内面を理解しながら目と目、心と心を通わせながら関わり、思いを言葉で伝え合えるように日々の保育を大切にします。感性や表現力を高める実践を重ね、笑顔が溢れる園を目指します。

3 生活リズム・基本的生活習慣の確立を保護者と共に

子どもの情緒の安定を図り、基本的生活習慣の確立のため相談や、情報提供など園と家庭とが協力する園を目指します。

3 本年度 河内こども園 学校評価（自己・学校関係者）評価書

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員評価)
教育課程・指導計画	職員が共通理解し、指導の重点をどこに置くかを話し合いながら、研究テーマに沿った保育に取り組んでいる。昨年に引き続き講師の先生に来てもらい園内研修の場を設けることができた。	4	4
行 事	園児の発達や育ちを踏まえて計画することができた。給食を食べる様子を見てもらい、園の食に触れる時間がもてた。子どもも保護者も一緒に楽しめる時間を持ち、関わりが広がるように計画をしていくようにした。	4	4
組織・運営	園の課題を明確にした経営計画をベースに同僚性を生かした組織作り・園運営をしている。しかし、伝わりにくいこともあり、伝え方が今後も課題。	3	3
学級経営	寄り添い内面理解をすることを保育の基本とし温かい人間関係を構築している。経験が遊びにつながるよう子どもの育ちに関わっている。	4	4
特別支援教育	家庭の状況を考慮しながら、一人一人の困り感を理解し援助や環境作りをしている。家庭との連携を大切にしている。	3	4
安全管理・保健指導	避難訓練や安全点検を毎月行い、反省を次に生かせるように職員間で話し合いを重ねた。また、情緒の安定のためメディアコントロールや絵本の貸出しなど家族との時間を大切にする取組を推奨している。意識する保護者もいれば、意識しづらい保護者もいた。今後も伝え続けていかなくてはならない。	3	3
研修（資質向上）	園内研修は、外部の講師に来てもらい子ども達の育ちや遊び、生活や環境について保育のヒントを頂き研修を進めることができた。園外研修にも積極的に参加し、早めの復命を行った。	4	4

情報提供・保護者・ 地域との連携	保護者と日常的な情報交換に加え、11月にコドモンが導入され、職員も使い方を学びながらコドモンでの配信をすることで、タイムリーに園のことがわかり嬉しいという保護者の声もあった。また、必要とあれば個人的に懇談を行い保護者との連携を取った。 キリタローを通じての関わりや自然活動体験ができた。外部の方の関わりが園だけではできない経験となった。	4	4
小学校との接続・連携	園と小学校職員同士が話し合いの場をもち、園児・児童が互いに学ぶことのできる交流の場を設けている。	3	3
子育て支援	子育てについての質問に保護者にも経験を教えてもらうアンケートをとって一緒に考え合える関係づくり、保護者が必要とした時に安心して相談のできる関係づくりに努めている。	4	4
食育の推進（給食）	野菜栽培を通して、育てることや食すことの喜びと美味しく食べられることへの感謝の気持ちがもてるようにしている。	4	4
食事の提供（調理）	調理担当と子どもと職員のコミュニケーションを図ることでより美味しく食べることができるようにしている。	4	4

4 その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価	評価委員評価 (学校評議員)
信頼される職員	いつも明るい挨拶と笑顔の対応を心がけている。	4	4
健康な心と体	感染予防に務め、体調に留意し、健康な状態を保つようにしている。	4	4

5 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

子ども達の様子を1年間行事ごとに評価委員の方に見ていただいていたので、子ども達の様子もわかってもらえ、成長を感じていただけた。保護者アンケートの結果は概ね良い結果をいただいた。

本年度の研究テーマに沿った教育・保育を職員みんなで意識して取り組んでいることを褒めていただき、なかなか気持ちを揃えることは難しいが職員が個々にコミュニケーションをとることを大切にし、気持ちを伝え合うことが大事になる。それが子ども達がのびのびと遊んでいる姿につながっているのではないかと評価していただいた。各クラス比較的少人数で交流がもちやすく異年齢の自然な関わりができる。そして小学校もほぼ隣接している環境で自然な関わりができ、そこから地域へとつながる活動ができた。来年度は今年度末に職員同士での話し合いを深め、より連携がとれるよう考え続けるとよいのではないかと意見をいただいた。

昨年度に引き続き基本的な生活習慣は、メディアチャレンジ期間に取り組んだ。なかなかメディアと離れることは難しいが、見直す機会になっているという保護者からの言葉が多々あった。また他の家庭がこんな時にはどうしているの？聞きたいことがありますか？という項目には質問がいくつかあり、その質問をアンケートとして再度、保護者や職員に問うことでたくさんの経験談が寄せられ、子育てについて考える機会ができた。このような取組は良いと褒めていただき、保護者と職員と一緒に子育てを考えていける内容に今後も取り組んでいきたい。

11月から『コドモン』アプリの導入があり、園の生活の様子などタイムリーに配信することで保護者に園のことがこれまで以上に伝わりやすくなったと思う。

6 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

園児も保育者も少人数だからこそその保育の利点を引き続き行いながら、少人数だから不利なところの改善をしていかなければならない。『コドモン』の導入で、より家庭と園のつながりが深まるように、『コドモン』の使い方を職員は学び活用していきたい。また保育者の業務に関してもしっかり活用していきながらも、「子どもがまんなか」の気持ちで保育・教育にあたれるようにしていきたい。

小学校との接続・連携についても共に考え続けるという意味でつながりを深めていきたい。その中で安全管理の面で合同の訓練に向けて子ども達の安全のために共に研究していこうという話があった。小学校や地域の方との交流の中で様々な人と関わりをもつことを喜び、善意を感じながら河内の人や地域に親しみ、愛着をもてるように活動を考えていきたい。また、外部講師の2年間の研修を受けて、子どもが一番の理解者になれるように、子どもと目線を合わせて生活していきたいと思う。